

赤平市では、貴重な炭鉱遺産を紹介する「赤平市炭鉱遺産ガイド施設」を、旧住友赤平炭鉱立坑やぐらの前に開設。主に3つの展示室、レクチャーホールからなり、照明はメンテナンスフリーと省エネ、光源露出面がコンパクトでデザイン性に優れているという理由からLED器具を採用しています。

赤平市は旧炭鉱関連会社より無償譲渡された、炭鉱遺産建造物を保存・活用した「まちづくり」を進める拠点として「赤平市炭鉱遺産ガイド施設」を建設しました。実際に使われた採炭道具、図面類を見て触れることができたり、当時使用した坑内実測図を鑑賞できる展示室のほか、見学ツアー前にやぐらを窓越しに見ながら解説を聴くレクチャーホールなどを整えています。また来訪者と交流できる物産販売やカフェコーナーも備えています。



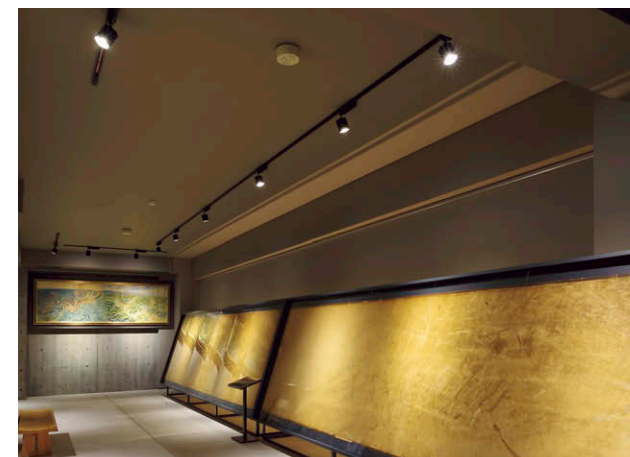
【物件概要】
所在地：北海道赤平市赤平 485 番地ほか
建築面積：514.08㎡
延床面積：496.19㎡
構造・規模：鉄筋コンクリート造・平屋建
施主：赤平市長 菊島好孝
設計：北電総合設計（株）
施工：建築／西出・丸宮・川本特定建設工事共同企業体
電気／（有）三浦電機商会
完成時期：2018年3月23日



レクチャーホール 後方から展示室と窓外を望む、LEDユニット交換形ダウンライト②による照明。



レクチャーホールから立坑やぐらのライトアップを望む。



展示室1 LEDスポットライト③で坑内実測図を浮かび上がらせる。



展示室2 LEDユニバーサルダウンライト(埋込形)①による照明。

展示物の時代感を伝えながら、モダンで洗練された照明空間を創出。

エントランスを抜けて左側の展示室1には、壁面に坑内実測図が展示され、照明ダクトに設置されたLEDスポットライトが詳細な図面を浮かび上がらせる役割を果たします。床置きディスプレイ台のある展示室2ではLEDユニバーサルダウンライト(埋込形)を配し、天井面をスマートにして、ディスプレイ台頂部のフレームが天井空間に浮遊しているような広がり演出。照度は150ルクス、展示物自体は200～250ルクスを確保し、展示物の昭和の時代感、古色感を活かせるよう電球色を

採用しています。

レクチャーホールはLEDユニット交換形ダウンライトを採用。展示室と連続した空間として、極端に明るい雰囲気にならないよう照度は300ルクスに設定しています。施設全体の照明は、炭鉱遺産の展示という性格上、間接照明などで過度な重厚感や落ち着き感を出さず、建築素材も当時の材料をあえて選択しながら、現代的な洗練された照明空間を創出しています。



① LEDユニバーサルダウンライト(埋込形) ② LEDユニット交換形ダウンライト



③ LEDスポットライト



展示室3 LEDユニット交換形ダウンライト②による照明。



エントランス 展示室に続くLEDユニバーサルダウンライト(埋込形)①による照明。

主な掲載機器一覧				
設置場所	器具名(品種名)	形名	台数	備考
屋内	LEDユニバーサルダウンライト(埋込形)	① LEED-15032WWW	30	消費電力: 15.2W
	LEDユニット交換形ダウンライト	② LEKD202003WWW-LS9	24	消費電力: 13.5W
	LED一体形スポットライト	③ LEDS-35112WWW-LS1	11	消費電力: 35.0W